

石田縞



かつて貧しさを支えた織物が、
お洒落な縦縞織物として復活、継承。

鯖江市石田(立待地区)はその昔、洪水のた
びに田畑が石の野原のようになったことから
その名が付きました。そして、貧しい住民を
救うために高島善左衛門氏が奮起し、縞織物
の盛んな美濃で織物を習い、職工を招いて工
場を建てたのが石田縞の始まりです。

石田縞は、木綿を使った藍染中心の縞柄の
織物で、織られるようになった当時は庶民の
普段着や野良着、あるいは布団地として多く
の人に着用、使用されていました。丈夫さにも
定評がありました。

明治後期〜大正時代には福井県下の女学校や

小学校の制服に指定され、学校縞とも呼ば
れ最盛期を迎えたものの、昭和に入ると他の織
物が盛んになり石田縞は縮小、衰退へ。一旦、
途絶えた石田縞ですが、昭和47年の立待小学校
創立百周年記念イベントを機に復元され、その
技が今なお、継承されています。昔は藍染が主
流でしたが、現在は地元で採取した桜や玉ねぎ、
よもぎなどで染め、素朴で手織りの優しい風合
いを楽しむことができます。

また福井出身の作家、津村節子氏の『遅咲き
の梅』では、石田縞復元当時の社会や暮らし、
り、石田縞の魅力が書かれています。



ここがポイント

次世代への技術と魅力継承に尽力。

石田縞復活を機に、石田縞技術保持者である吉川道
江さん、山本かよ子さんらも含め、次世代への技術継承
に尽力しています。平成21年には「石田縞手織りセン
ター」を設立。生地や手織りの説明を聞きながら、石田
縞を織る楽しみやデザインのすばらしさなど様々な魅力
を体験できる施設となっています。(写真上:エプロン、
コースター、ブックカバー、名刺入れ、小物入れなど)

製造者 / 協同組合 鯖江市織維協会
住 所 / 鯖江市糺町32-1-1
T E L / 0778-52-1880 F A X / 0778-52-9880
<http://s-senkyo.com/>

平成27年3月25日指定



ここがポイント

竹紙を織り込む越前石田縞を新たに創作

織物を学んでいた大学時代に石田縞に出会い、卒業
研究でさらにその魅力に惹かれた佐々木さん。以来、
「織るたびに課題が出るので織り続けている」とのこと。
平成元年には地元の特色を生かしたものを作りたいと、
縞糸に竹紙を織り込む「越前石田縞」を誕生させました。
従来より縮みが少ないのが特徴で、今後も石田縞全体
の魅力を伝えるべく、創作活動を続けています。(写真
下)

製造者 / 佐々木理恵
住 所 / 鯖江市長泉寺町1-6-15
T E L / 0778-51-4647

平成27年3月25日指定

